

## 論文審査の結果の要旨及び担当者

報告番号	博（医）乙第1773号	氏名	内田 隆一
論文審査担当者		主査教授 森田 公一 副査教授 片峰 茂 副査教授 森内 浩幸	
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価</p> <p>本研究は、小児下痢症の原因ウイルスとして重要であるロタウイルスの分子疫学調査をこれまで詳細な調査研究がなされていなかったネパール国において実施したものであり、国際感染症研究の観点からみて目的は妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価</p> <p>1年間にわたりカトマンズ市において下痢症検体を採取し、ELISA法によりA群ロタウイルス抗原の検出を行った後、それぞれの検体についてロタウイルス粒子表面タンパクであるVP7(G type)およびVP4(P type)の遺伝子をRT-PCR法で増幅後、Nested PCR法により遺伝子型を決定し、一部は直接塩基配列の解読により遺伝子型を決定して解析を実施したものであり研究手法も妥当である。</p>			
<p>3 解析・考察の評価</p> <p>上記の手法で解析した結果、ネパールにおいてはG1P(8)が71%と優位であるが他の国では稀であるG12P(6), (8)が20%と高い割合をしめした。さらにelectropherotypeではネパールで流行しているロタウイルス遺伝子はきわめて多様であることが明らかとなった。現在、世界的にロタウイルス生ワクチンの導入が検討されている。G1P(8)はこのワクチン候補株に含まれているがG12は含まれておらず新興ウイルス株となる可能性が示唆される。</p> <p>以上のように本論文はロタウイルス分子疫学に新知見を加え、今後の地球規模でのワクチン導入において開発途上国におけるウイルスモニタリングが重要であることを示すものであり新興感染症研究に寄与するところ大である。よって、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			